



気の向くままに。
ニセコのふところに抱かれる
とっておきの別荘時間。

秋の夜長をゆったりと過ごす、ライトと暖炉が印象的なラウンジ「アベソ」。

懐かしくも温かい…
心からゆるりと寛げる、
あなたの故郷として。



紅葉の先に広がる阿寒湖の静寂を眺めるロビーラウンジ。

大きな扉を開くと、そこには異空間が広がっていた。深い色調の空間なのに重々しさを感ぜない。むしろ心地よさを感じる。数分前まで頭の中を占めていた喧嘩が嘘のようだ。忘れかけていた穏やかな心が、全身の力を抜いてゆく。

部屋に通されると、またそこも気持ちがいい。心が緩み、思わず横になって大の字になる。微かに聞こえる時計の秒針さえもゆつたりと感じるほどだ。何もしない。という時間が、こんなにも充実しているなんて思いもしなかった。ふと部屋の隅にあるオーディオが目にとまる。お気に入りのピアノジャズでも聴こう。窓外に広がる紅葉が似合いそうなあの名曲なんてどうだろう。

しつとりとした旋律が、部屋に響く。

この歳になって、ここに来て、やっと人生に大切なことがぼんやりと見えてきた。自分を取り戻すとは、こういうことなのだ。何もせずに、何も考えずに。仕事に打ち込み、趣味を愉しむことも大切だけれど、こうした時間が愛おしい。

成り行きの旅だったけれど、これからは年に一度、ここに来よう。今回はただのんびりと心のリセットに。次回は、少しずつ宿のまわりに広がる自然を味わってみようか。きつと仕事に疲れて、同じように「何もしない旅」を愉しんでしまうのだろうか。

「あなた、最近、疲れてるんじゃない？」

旧友と行きつけのバーで飲んでいる時だった。会社の同期で、自然と社内結婚をし、幸せな家庭を築いている彼女。私は、と言えば女性だからと仕事が任せてもらえないことに奮起して、とにかく働いて、気がつけばマネージャーという肩書きを持っていた。両極端な人生を歩んでいながら不思議と馬が合う二人。

「仕事のし過ぎなのよ。昔から頑張り過ぎるクセがあるでしょ。でも、そろそろ私たちも年相応って言葉を覚えなないとね…」

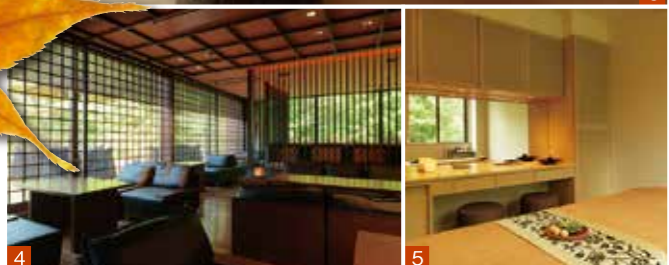
あの頃と変わらない調子で彼女は言う。カウンターの向こうでマスターが頷く。ふと私は、今まで何のために働いてきたのだろうか、と考えはじめた。やり甲斐を求め、自分を高める。それが自分の未来につながっているのだと…。

ドアを開けると、凛とした空気が車内を満たす。思わず溜め息が息がたたくくなるほど澄んだ空気が体の中を満たす。長時間、運転してきた疲れなど忘れて愛車から降りた。

宿の名に「鶴雅」の文字。何年ぶりかで再会した旧友に勧められるがまま予約をして、いま目の前に立っている。ところで、ここを訪れた目的はなんだったかしら…。

鶴雅物語

「何もしない旅」



- ①秋の滋味を心ゆくまで味わう温泉旅館ならではの創作日本料理。
- ②大自然を独占するような贅沢さが味わえる温泉露天風呂スイート。
- ③ニセコアベツ川のせせらぎが安らぎをもたらすデラックスツイン。
- ④香り立つ芳醇な旅の一夜を演出するカフェ&バー「アベ」。
- ⑤天然植物由来のアロマオイルを使用するトリートメント「雪子」。

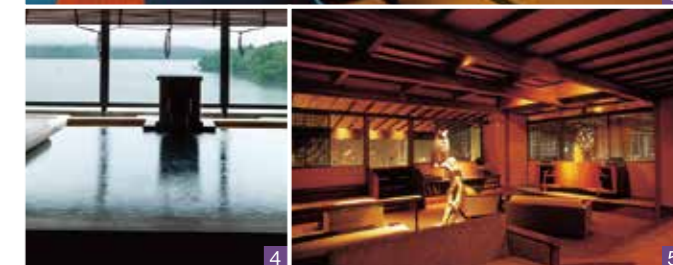
ニセコ昆布温泉鶴雅別荘
空の抄
Niseko Kampo Onsen Tsuruya Bessho Moku no sho

〒048-1511
虻田郡ニセコ町ニセコ393
TEL.0136-59-2323
FAX.0136-59-2300



あかん 鶴雅別荘 ひなのさ
部の座

〒085-0467
釧路市阿寒町阿寒湖温泉2丁目8番1号
TEL.0154-67-5500



- ①「何もしない」至福のひとつを味わうバーラウンジ「座・BAR」。
- ②海の幸を中心に、郷土味が堪能できる「料理茶屋 ひな」。
- ③日々の喧嘩さえ忘れさせてくれる檜露天風呂付「天の座スイート」。
- ④阿寒湖を見渡し、和檜が香る露天風呂を備えた「湖の座スイート」。
- ⑤お好みの音楽とワインで大人のひとときを愉しむリスニングルーム。